


課題研究テーマ	3品種の稲の収量比較調査、食味調査 ～ミルキークイーン・つや姫・ひとめぼれ～		
研究者名	農業科3年 作物専攻 工藤 鈴花		
1. 研究テーマ設定の理由			
<p>本校では、ここ3年「つや姫」を栽培していたが、本年度は、「ミルキークイーン」を栽培することとなった。この「ミルキークイーン」は、コシヒカリが突然変異したものである。「ミルキークイーン」と昨年度栽培していた「つや姫」、「ひとめぼれ」の3品種が久住の地でどのような成長の違いがあるか、そして、その3品種の食味調査を行うこととした。</p>			
2. 研究計画			
4月	テーマ設定、播種		
5月	田植え		
6月	調査		
7月	調査		
8月	調査		
9月	稲刈り		
10月	粃すり		
11月	まとめ		
12月	まとめ		
1月	課題研究発表会		
			
3. 研究経過			
4月17日	近隣の方にある最先端の播種機にて播種 育苗ポット1穴に3粒播種し、シルバーシートを掛け育苗		
5月22日	課題研究水田で田植え		
6月～8月	生育調査		
9月27日	稲刈り、かけ干し		
10月16日	粃すり		
12月	粒数、株数、分けつ数、収量調査		
4. 研究結果			
(1) < 3品種の収量比較調査 >			
ミルキークイーン収量調査			
株	穂数	穂数番号	粃数
1	134	1	93
		2	77
		3	78
		4	134
		5	
計	134		382
株当たり平均 (本)		(粒)	
5株計	134	5穂計	382
1株	26.8		96
つや姫収量調査			
株	穂数	穂数番号	粃数
1	177	1	113
		2	110
		3	110
		4	92
		5	121
計	177		546
株当たり平均 (本)		(粒)	
5株計	177	5穂計	546
1株	35.4		109

ひとめぼれ収量調査

株	穂数	穂数番号	籾数
1	140	1	121
		2	153
		3	228
		4	119
		5	124
計	140		745
株当たり平均		(本)	(粒)
5株計	140	5穂計	745
1株	28, 8		149



(2) <10a 当たりの予想玄米重>

1 m²当たりの株数×1株当たりの穂数×1穂当たりの籾数×千粒重=10a 当たりの予想玄米重

ミルクークイーン	9	×	26.8	×	96	×	21	=	486kg
つや姫	9	×	35.4	×	109	×	23	=	798kg
ひとめぼれ	9	×	28.8	×	149	×	23	=	863kg

※本年度の学校の慣行圃場の10a 当たりの玄米重は418, 8kg でした。

(3) <食味調査>

3品種の食味調査を行った。調査項目は「香り」「味」「粘り」「硬さ」で調査を行った。

- ・「香り」—つや姫
- ・「味」—ミルクークイーン
- ・「粘り」—ミルクークイーン
- ・「硬さ」—つや姫

5. 考察およびまとめ

①ミルクークイーンの栽培を行った。

栽培が少し難しいと言われていたので、収量が少ないと思っていたが、1番多かったのは「ひとめぼれ」だった。「ミルクークイーン」は3番目となった。

②食味調査では、

ミルクークイーンは、アミロース含有量が低く、粘りが強く、モチモチとした触感でもち米に似ていたため、やはり粘りと硬さと味が1番多かった。

6. 反省

- ①同じ部門のクラスメイトに調査を任せることが多く、観察をきちんとできなかった。
- ②先生方に、背丈の計り方や株数の数え方をきちんと質問して、作業に取り組むべきであった。
- ③記録用紙をなくしたため、計測を行っていたが、まとめることが出来なかった。きちんと記録用紙管理しておけばよかった。

課題研究テーマ	トマトの仕立て方の違いによる糖度と収量比較に関する研究
研究者名	農業科 3年 野菜専攻 佐藤龍也
<p>1. テーマ設定の理由</p> <p>トマトは本校の野菜部門の顔である。授業で野菜を学ぶ中で、私はトマトに興味を持ち、トマトに関する研究に取り組みたいと考えるようになった、トマトの仕立て方を変えた事による収量の品質の変化について興味を持ったため研究テーマを決めるにあたり、本校のトマト栽培は一本仕立てであるが、二年次のインターシップでお世話になった農業法人では二本仕立てによる糖度と収量の比較をしたいと思い、今回のテーマに決定しました。</p>	
<p>2. 研究計画</p> <p>4月…テーマ決め。 5月…うね立ておよび定植 6月…管理作業 観察 7月…管理作業(わき芽とり)除草作業 8月…管理作業(わき芽とり誘引)除草作業 9月…収穫 糖度比較調査 10月…収穫 糖度比較調査 11月…収穫 糖度比較調査 12月…資料のまとめ発表準備 1月…課題研究発表</p>	
<p>3. 研究経過</p> <p>4月 課題研究テーマ決め 「トマトの仕立てのの違いによる糖度と収量比較に関する研究」に決定</p> <p>5月 耕うん(堆肥、石炭、リン酸肥料を入れて耕耘)全農ハウスにて畝幅 70 cm 灌水チューブをセットしてマルチ貼り</p> <p>6月 6月1日に定植 株間 70 cm 一本仕立て 10本 二本仕立て 10本 二本仕立て：第一段花房の下から出るわき芽を伸ばし二本仕立てとした。</p> <p>7月 わき芽と雑草取り、誘引作業</p> <p>8月 ～11月 わき芽取り誘引作業、収量、糖度調査</p>	

4. 研究結果

収量・糖度調査結果

(8月19日～11月13日・9回調査)

区分	一本仕立て				二本仕立て									
	株 No.	個 数	収 量	糖 度	株 No.	主枝			側枝			計		
						個 数	収 量	糖 度	個 数	収 量	糖 度	個 数	収 量	糖 度
合計	1	84	5.4	6.2	1	95	4.5	5.9	103	4.6	6.0	198	9.1	5.9
	2	97	5.6	6.0	2	77	4.3	5.9	85	3.9	5.6	162	8.2	5.8
	3	114	6.3	5.9	3	87	4.9	5.8	89	3.8	5.9	176	8.7	5.8
	平均	98.3	5.8	6.0		86.3	4.6	5.9	92.3	4.1	5.8	179	8.7	5.8

5. 考察及びまとめ

.平均糖度は、一本仕立て 6.0 度 二本仕立て 5.8 度とあまり変わらなかった。

.一個当たり平均果重は、一本仕立て 59 g 二本仕立て 49 g と一本仕立てが 10 g 重かった。

.一株当たり収量は一本仕立て 5.8 kg、二本仕立て 8.7 kg と二本仕立てが 5 割も多かった。
これを 10 a 当たりに換算すると、二本仕立てが一本仕立てより 2.7 t も増収することとなる。

.二本仕立ての主枝と側枝の比較では主枝が、収量 糖度ともにわずかに上回った。

.二本仕立ては、株が過繁茂となり管理しにくいため、うね幅、株間を検討する必要がある。

6. 反省（今後の課題）

.トマトを毎週一回糖度と収量を調査することになっていたけど、できなかった日があったこと。

.誘引が、遅れて茎が折れてしまったこと。

.夏休み期間わき芽などがとれなかったこと。それがあり、収穫が遅れて調査するのが、大変だったこと。

.収穫時期が、遅れてトマトが腐っていた。

課題研究テーマ	虹色のバラ ～レインボーローズの作製及び レインボーローズを使ったハーバリウムづくり～
研究者名	農業科 3年 草花専攻 佐藤 真莉
<p>1. テーマ設定の理由</p> <p>① インターネットで虹色のバラを見て、どのようにしてつくることができるのか気になり自分でつくってみたいと思った。</p> <p>② レインボーローズを使ったハーバリウムを作製し、レインボーローズを幅広い世代の人に知ってもらいたいと思った。</p>	
<p>2. 研究計画</p> <p>4月…レインボーローズづくりの計画作成</p> <p>5月…白色カスミソウの播種</p> <p>6月…カスミソウの発芽確認</p> <p>7月…レインボーローズづくりの開始 バラの染色</p> <p>8月…バラの染色実験</p> <p>9月…バラの染色実験</p> <p>10月…バラの染色実験</p> <p>11月…バラの染色実験</p> <p>12月…レインボーローズのハーバリウム作製</p> <p>1月…まとめ</p>	
<p>3. 研究経過</p> <p>8月:育苗センターでバラの収穫、食用色素による染色液作り、 バラの染色実験 (2 1)</p> <p>9月:実験結果の反省 (4)、食用色素による染色液作り (1 3)</p> <p>10月:トルコギキョウの食用色素による染色実験 (1 8) (1 9)</p> <p>11月:まとめ</p> <p>12月:まとめ</p> <p>1月:バラの切り花用着色剤による染色実験 (1 4) (1 5) (1 6)</p>	

4. 研究結果

着色は、食用色素を水道水に溶かし着色液をつくり、茎を2～4本に裂く。



切り花用保水キャップに食用色素を入れて実験を行ったが花が枯れて染まらなかった。

写真1 食用色素によるバラの染色実験

6回目の実験では、着色剤を「ファンタジー」という切り花用着色剤を使い、バラはエクアドル産の長さ30cm程度、主茎の太さは7mm程度の白色のバラを使用した。

図1 試験区の設定

	切り花用着色剤の種類	計
①	レッド、ミント、ラベンダー、マスタード	4色
②	レッド、ミント、ラベンダー、ロイヤルブルー	4色
③	ラベンダー、ピンク	2色
④	マスタード、ロイヤルブルー、ピンク	3色



試験管に切り花用着色剤を入れて実験すると花びらを虹色に染めることができた。

写真2 切り花用着色剤によるバラの染色実験

5. 考察及びまとめ

日本のバラの茎の太さは5mm以下と細く、主茎を裂いた時にさらに細くなったことから吸い上げづらくなったと考えられる。また、食用色素と水道水で着色液を作ったが、濃度が濃いため着色できなかったと考えられる。また、切り花用保水キャップや紙コップを使ったことで切った茎の広がる面積が大きくなり、主茎の分岐～着色液面までの距離が長く乾燥してしまったと考えられる。

バラの着色は、輸入品のオランダ産の太い主茎のバラを使用したほうが着色しやすいことを知り、そこで、今回手に入れられたのはエクアドル産のバラでしたが、主茎の太さは7～8mmと太かった。結果は、うまく花びらを染めることができた。この結果よりエクアドル産のバラは主茎が太く、また試験管を使ったことで切った主茎の広がりが抑えられ、主茎が着色剤に浸かり、吸い上げられることができたと考えられる。

6. 反省（今後の課題）

レインボーローズ作製に時間がかかったため、ハーバリウムを作ることができなかった。しかし、最後まであきらめず研究を続けたことで着色に成功することができた。今後の課題は、作れなかったレインボーローズのハーバリウムをつくり、家族や大切な人、お世話になった人にプレゼントし、幅広い世代の人にレインボーローズを知って欲しい。

課題研究テーマ	暖地型牧草に関する生育と収量調査																																
研究者名	農業科 3年 畜産専攻 友永 諒																																
<p>1. テーマ設定の理由</p> <p>現在本校の草地では、主にイタリアンライグラスという牧草が収穫され牛の粗飼料となっている。牧草の種類について調べる中、暖地型の牧草がある事を知り、地球温暖化が進むと言われる中、この地域に適した牧草はどの品種なのか調べたいと思い、生育・収量調査を行うこととした。</p>																																	
<p>2. 研究計画</p> <p>4月・・・テーマ設定（研究内容の確定）</p> <p>5月・・・テーマ設定（試験区の設定、品種の確定）</p> <p>6月・・・各牧草種子購入・草地耕うん・播種</p> <p>7月・・・生育調査</p> <p>8月・・・生育調査</p> <p>9月・・・生育調査、牧草の刈り取りと乾燥</p> <p>10月・・・家畜への給餌</p> <p>11月・・・まとめ</p> <p>12月・・・まとめ</p> <p>1月・・・まとめ・課題研究発表</p>																																	
<p>3. 研究経過</p> <p>4月・・・テーマ設定</p> <p>5月・・・テーマ設定</p> <p>6月・・・テーマ設定（供試品種の確定）</p> <p>供試品種：なつ乾草（アワ）、ローズグラス ギニアグラス（ソイルクリーン、パイカジ）の4品種</p> <p>6/21（金）牧草種子購入（購入先みらい蔵）</p> <table border="0"> <tr> <td>なつ乾草（アワ）</td> <td>1kg</td> <td>1,890円</td> </tr> <tr> <td>ローズグラス（カタンボラ）</td> <td>1kg</td> <td>3,564円</td> </tr> <tr> <td>ギニアグラス（ソイルクリーン）</td> <td>1kg</td> <td>4,860円</td> </tr> <tr> <td>ギニアグラス（パイカジ）</td> <td>1kg</td> <td>8,640円</td> </tr> </table> <p>7月・・・ 7/29（月）</p> <p>試験区の整備（耕耘、堆肥の投入、播種・灌水）</p> <p>試験区（各区画の面積）4m×4m（16㎡）の4区画を設定</p> <p>播種量：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験区</th> <th>播種量 16㎡当たり</th> <th>播種時期</th> <th>播種量(g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>なつ乾草(アワ)</td> <td>7月下旬播き</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>ローズグラス(カタンボラ)</td> <td>7月下旬播き</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>ギニアグラス(ソイルクリーン)</td> <td>7月下旬播き</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>ギニアグラス(パイカジ)</td> <td>7月下旬播き</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table> <p>8月・・・生育調査 区画周辺の除草</p> <p>9月・・・生育調査</p> <p>10月・・・収穫（刈り払い機で）</p> <p>11月・・・家畜へ給餌</p> <p>12月・・・まとめ</p> <p>1月・・・まとめ・課題研究発表</p>		なつ乾草（アワ）	1kg	1,890円	ローズグラス（カタンボラ）	1kg	3,564円	ギニアグラス（ソイルクリーン）	1kg	4,860円	ギニアグラス（パイカジ）	1kg	8,640円	試験区	播種量 16㎡当たり	播種時期	播種量(g)	A	なつ乾草(アワ)	7月下旬播き	64	B	ローズグラス(カタンボラ)	7月下旬播き	48	C	ギニアグラス(ソイルクリーン)	7月下旬播き	24	D	ギニアグラス(パイカジ)	7月下旬播き	48
なつ乾草（アワ）	1kg	1,890円																															
ローズグラス（カタンボラ）	1kg	3,564円																															
ギニアグラス（ソイルクリーン）	1kg	4,860円																															
ギニアグラス（パイカジ）	1kg	8,640円																															
試験区	播種量 16㎡当たり	播種時期	播種量(g)																														
A	なつ乾草(アワ)	7月下旬播き	64																														
B	ローズグラス(カタンボラ)	7月下旬播き	48																														
C	ギニアグラス(ソイルクリーン)	7月下旬播き	24																														
D	ギニアグラス(パイカジ)	7月下旬播き	48																														

4. 研究結果

牧草の生育と収量調査について

(表1) 各牧草の基準収量と実収量

試験区	収量調査(生草) 16m ² 当たり	基準収量(Kg)	今回の収量(Kg)
A	なつ乾草(アワ)	48	9
B	ローズグラス(カタンボラ)	40	12
C	ギニアグラスソイルクリーン)	56	25
D	ギニアグラス(パイカジ)	40	14

収穫できる草丈に達した牧草と達していない牧草もありましたが、牧草の色も落ちてきた事から、これ以上の生育は望めないと判断し、10月30日(水曜日)に収穫を行った。

各区ともに、播種から2週間経過後から発芽の確認ができましたが、「なつ乾草」・「ローズグラス」区では、雑草の発生が目立つようになり目的の収量を得ることが出来なかった(写真1、2)。

「ギニアグラス」の2品種については草勢もよく、順調な生育が見られ、雑草の発生はあまりみられなかった(写真3)。しかし(表1)のように各区において基準収量を大きく下回る結果となった。



写真1: なつ乾草



写真2: ローズグラス



写真3: ギニアグラス

5. 考察及びまとめ

[牧草の生育・収量調査について]

暖地型牧草である4品種について調査を行なったが、予想した収量を得られなかった。

理由として、次のような事が考えられます。

- ① 耕うんの不備→各試験区のトラクタでの耕うんが不十分だった。
- ② 除草剤の利用→雑草の発生を予測した、除草剤を散布するなどの手段を取らなかった。
- ③ 播種後の鎮圧→播種した種子が流されないよう、覆土も兼ねて鎮圧を行う。(種に水がしみやすくするため)しかし、播種後に激しい雨が降り出したため、鎮圧の作業が出来なかった。
- ④ 圃場の環境 →ある程度、平坦な5号草地の場所を選び播種したが、研究圃場以外の上部(斜面)は耕うんしていなかったため、硬い草地に降った雨水が研究圃場へ流れ込むことで、種子が流された事が要因の1つだと考えられる。

基準収量に達しなかった牧草の中でも、ギニアグラスが他の牧草より生育が良かった要因は、発芽してから葉や茎が伸長することで、光が遮られることにより、雑草の発生が抑制されたのではないかと考えられます。

6. 反省(今後の課題)

今回、反省点や課題の残る研究になってしまいましたが、事前の準備の大切さや予期しないことにも、想像力を持って取り組むことが必要だと感じさせられました。

私は、進路先でも自然や緑に関わる仕事に就きます。課題研究で経験したことをプラスにしていけるよう、頑張りたいと思います。

課題研究テーマ	自然薯のパイプ栽培について～食味調査～
研究者名	農業科 3年 作物専攻 後藤竜聖
1. 研究テーマ設定の理由	
<p>自然の自然薯は知っていたが畑でも栽培できることを近所の農家さんから伺った。そこで自然薯をパイプ栽培で、育てみたいと思い農家さんと共同で栽培をおこなうことにした。</p>	
2. 研究計画	
4 月	自然薯について調べる。元肥を行う。
5 月	自然薯の定植
6 月	調査
7 月	調査
8 月	調査
9 月	食味調査
10月	食味調査
11月	収穫
12月	まとめ
1 月	課題研究発表会
3. 研究経過	
4月26日	殺虫剤としてダイアジン粒剤と元肥として化成肥料555を播いた
5月15日	パイプ土入れ・パイプ埋設・定植 吉野さんの協力をえて、種芋は吉野さんがオーソサイド水和剤につけてくれた。
6月21日	自然薯のつると葉の枚数の調査
6月26日	自然薯のつると葉の枚数の調査
7月26日	自然薯のつると葉の枚数の調査
8月14日	追肥(S646肥料名) 1つの株に30g
9月 4日	食味調査
10月 9日	食味調査
11月13日	自然薯の収穫 作り芋とパイプ芋の違いを調査
12月11日	二回目の自然薯の収穫



4. 研究結果 <生育調査>

生育調査結果

6月21日	1	2	3	4	5
長さ	52cm	83cm	51cm	49cm	69cm
葉の枚数	3枚	8枚	0枚	10枚	6枚
つるの長さの平均 60.4cm					
6月26日	1	2	3	4	5
長さ	1m	1m5cm	70cm	80cm	1m
葉の枚数	9枚	17枚	3枚	27枚	18枚
つるの長さの平均 91.0cm					

生育調査結果

7月26日	1	2	3	4	5
長さ	2m30cm	1m90cm	1m45cm	1m60cm	1m80cm
葉の枚数	82枚	88枚	13枚	94枚	70枚
つるの長さの平均 181.0cm					

5. 考察およびまとめ

- ・自然の自然薯とパイプ栽培の違いについて

▽収穫のしやすさでは、パイプ芋の方が実を傷つけずに、なおかつ楽に収穫ができた。

▽真っ直ぐで大きな自然薯を作ることができた。

<食味調査>

食味調査	粘り気	風味	食感
パイプ芋	良し	少し雑味がある	少し水っぽい
作り芋	良し	芋の味がしっかりしている	ねばりけが強い

今年は「形の良い芋を作る」という目標があったが、今年は雨が例年より多く、畑自体の水分が多くなり芋の形があまり良くなかった。また害虫（センチュウ）の被害も見られた。その他に、褐色腐敗病と思われる被害がみられた。パイプ芋の食感が少し水っぽかった理由としては、畑の水分が多くその影響でパイプ芋が水っぽかったと考えられる。

6. 反省

自然薯の種芋のわき芽かきをうまくできなかったのも、自然薯ができた際に、パイプの外に芋ができてしまい、収穫の際にとっても大変だった。植える前にしっかりとわき芽かきを済ませておくことが大切である。また、自然薯の定植で使用するパイプをしっかりと除菌して病気ができないようにする。

害虫（センチュウ）の影響で根こぶ病ができて、形の悪い芋ができていた。パイプに詰める土は、土壌消毒を行った土を使用すると害虫（センチュウ）の被害が抑えられると思う。

課題研究テーマ	ホントに変わるの？ ～天空スイカと慣行スイカの違いについて～
研究者名	農業科 3年 野菜専攻 花籠 拓海
<p>1. テーマ設定の理由</p> <p>5月に体育館で行われたくじゅうアグリ創生塾完成記念式典の記念講演にて、東京農業大学小泉武夫先生の発酵学についての講演が行われた。その中で、カボチャを立体的に仕立てた栽培方法の「天空のカボチャ」について話が出た。立体的に栽培することで、光を多く吸収させることで糖度が増すという内容であった。そこで、カボチャでできるならスイカでもできるのではないかという考えから、慣行栽培と立体栽培による糖度比較について研究を行った。</p> <p>※テーマ内の「みかく」とは本校野菜部門で苗を販売しているスイカの品種である。</p>	
<p>2. 研究計画</p> <p>5月…テーマ設定、資料集め スイカ定植 6月…立体栽培のためのネット張り 誘引開始 7月…農薬散布 わき芽取り 人工授粉開始 8月…収穫 糖度調査 除草作業 9月…収穫 糖度調査 除草作業 10月…スイカの片付け 11月…栽培棚等の片付け 12月…調査結果のまとめ 1月…調査結果のまとめ 課題研究発表会</p>	
<p>3. 研究経過</p> <p>5月 課題研究のテーマ決定 耕耘（堆肥・セルカ・リンスターを入れて耕耘） 全農ハウスにて畝作り 24日に定植 （畝幅200cm、株間130cmの畝にて慣行・立体4株ずつ定植） 6月 スイカの誘引開始（立体栽培4苗）除草作業 中旬 アブラムシ発生のため、ベストガード粒剤散布（5g1000倍液にて散布） 7月 3日～人工受粉開始 25～30節の間に受粉させる わき芽取り 8月 防虫ネット、支柱網、ワイヤーを使ってスイカを支えるネット作成 上旬 アブラムシ発生のため、マラソン乳剤散布（5ml2000倍液にて散布） 中旬以降～ スイカ収穫・調査開始（8月19日～9月4日） 9月以降～ スイカの片付け開始 11月以降～ 課題研究発表会に向けてのまとめ</p>	

4. 研究結果

処 理	果実番号	着果日	調査月日	重量(kg)	球高(cm)	球径(cm)	外果皮厚 (mm)	糖度
立 体 栽 培	立-①	7月25日	8月28日	6	23	22	10	10.6
	立-②	7月4日	8月19日	8.6	27	27	15	13.1
	立-③	7月4日	8月19日	7.8	26	25	10	13
	立-④	7月5日	8月19日	2.6	17	17	10	11.5
	立-⑤	7月6日	8月19日	10.3	28	29	12	11.7
	立-⑥	7月17日	8月28日	5	22	21	11	10.2
		平 均		6.7	23.8	23.5	11.3	11.7
慣 行 栽 培	地-⑦	8月1日	9月4日	1	12	13	8	9.2
	地-⑧	7月24日	8月28日	3.2	17	17	9	5.6
	地-⑨	7月3日	8月19日	7.4	26	24	13	9.9
	地-⑩	7月8日	8月19日	7.3	26	25	15	9
	地-⑪	7月4日	8月19日	4.5	22	21	11	10.8
		平 均		4.7	20.7	19.9	11.2	8.9

5. 考察及びまとめ

- 1) 立体栽培のスイカは大きく成長しており、糖度も慣行栽培より3度ほど高かった。
- 2) 重量や1球の大きさも慣行栽培より、立体栽培の方が良い。
- 3) 栽培管理がしやすく、スイカに虫や病気が発生してもすぐに対応できる。

- ・立体栽培は多くの光を葉や球に当てられるため、育ちが良いのが利点。
- ・一方で慣行栽培は立体栽培より当たる日の量が少なく、球返し、蔓引きをしないといけない為、負担がかかる。かん水もしにくい。
- ・全農ハウスで栽培すると日も当たり、風も良く通る為、栽培には最適であると考え。

6. 反省（今後の課題）

- 1) スイカの葉や球を吊る方法を早く考えないといけない。（スイカを吊るネットの作成などに想像以上に時間がかかったため。）
- 2) 早めに肥料を入れて、耕耘し、もう少し土壌を落ち着かせたらよかった。
- 3) 夏休みを挟んだため、栽培管理に集中できなかったこと。
- 4) 灌水の判断が難しく、かん水をし過ぎたことがあった。
- 5) 収穫適期を過ぎて収穫したスイカがあり、果肉のみずみずしさ、シャリ感が落ちたものが落ちていたスイカがあった。スイカは毎日見るべき。